

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 『三絆完遂 夢成就』…学習・クラブ・行事の三つの絆を大切に、バランスの良い人間形成に努め、生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす。
- 1 これからの社会を生き抜く「強さ」と「優しさ」を併せ持つ幹の太い生徒、そして高い目標を掲げ、その目標に向けて日々努力する生徒を育成する。
 - 2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって特色づくりに努め、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
 - 3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む。

2 中期的目標

- 1 幹の太い生徒の育成

幹＝人間力（挨拶、忍耐力、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心）

 - (1) 分掌、学年、委員会が連携し、さまざまな教育活動を通して、成功体験を積み、自尊感情の高揚を図り、人間力を育成する。
 - ア 生活規律の確立に取り組むことにより、高い規範意識を持ち、場を理解し、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
 - イ 人権教育を推進し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安心・安全な学校づくりに努める。
 - ウ 様々な講演会や説明会、体験活動等の教育活動を通して、自らの将来を主体的に考える意識を醸成する。また、学校行事やクラブ活動等を含め校内外の様々な教育活動に積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(H29：81%)「学校生活の満足度」(H29：78%)の項目を2020年度には85%以上をめざす。
また、「部活動に積極的に参加」の項目は毎年90%(H29：92%)以上を維持する。
 - (2) 確かな学力の育成
 - (1) 学習意欲の向上を図り、自己実現をめざした学力を育成する。
 - ア 授業規律を確立し、授業への集中力を高め、学習に向かう意識を向上させる。
 - イ 全学年で学習意欲を向上させ、自学自習の習慣の確立をめざした取り組みを推進する。
 - ウ 生徒の現状を把握し、講習や補習等を組織的、計画的に実施する。

※卒業時アンケートによる進路実現への満足度80%(H29：81%)以上を維持する。
 - (2) 授業改革・改善に積極的に取り組み、授業の質をさらに高める
 - ア 習熟度別・進路別少人数授業を行い、きめ細かな授業を展開する。また、授業見学や公開授業などにより、さらに質の高い授業をめざす。
 - イ 次期学習指導要領を踏まえた上で、新大学入試制度についての研修、研究を進めながら新しい教育課程を策定する。また、平成27年度学校経営推進費事業とPTA・同窓会の支援によるICT機器及び様々な教育ツールを活用することにより、生徒の興味・関心をさらに引き出す授業を展開する。
 - ウ 授業アンケート・学校教育自己診断等を実施、分析し、組織的に授業力の向上を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい(H29：68%)」「教え方の工夫(71%)」の項目を2020年度には75%以上をめざす。
- 3 特色づくりの推進による学校力の向上
 - (1) 近年取り組んできた事業をさらに充実し、学校力を向上させることにより、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
 - ア eコース(esperanza：希望、education：教育)の取組みを充実させ、教員をめざす生徒を育成するとともに、高い進学意識をもつ生徒も育成する。
 - イ 実用英語検定資格を取得することにより、進路実現に結びつく力及びグローバル社会を生きる基礎力を養成する。
 - ウ 国際交流および国際理解教育を推進することにより、異文化理解と国際感覚を高めるとともに、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。
 - オ エコキャップ運動などを通して環境問題への理解を深め、国際貢献に取り組む生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校生活の満足度(H29：78%)」を2020年度には85%以上をめざす。
 - (2) 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感・自尊感情を醸成する。
 - ア 生徒主体の河南講座及び運動系・文化系クラブによる中学生との交流や地域の公演活動等への積極的参加など地域交流を拡充する。
 - イ 学校だより等の近隣学校への配付及びwebページ掲載により地域及び関係機関等への情報発信に努める。
 - (3) 防災マニュアルを充実するとともに安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を具体的に知らされている(H29：73%)」の項目を2020年度には80%以上をめざす。
 - (4) 校内業務の精選や外部人材等の活用により、業務負担の軽減を行い、教職員が健康に過ごせる学校づくりに取り組む。
- 4 生徒支援の充実
 - (1) 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。
 - ア 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有化と組織的な対応を促進する。

※生徒向け学校教育自己診断の「悩みを聞いてくれたり、相談に応じてくれる先生がいる(H29：54%)」の項目を2020年度には60%以上をめざす。
 - (2) 3年間を見通した進路指導計画により、系統的なキャリア教育体制を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断の「進路についての情報をよく知らせてくれる(H29：84%)」の項目を2020年度には90%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>保護者の回収率は76.3%に向上しており、アンケート結果を見ても10項目で肯定率が上昇している。しかし、生徒は5項目上昇、10項目減少という結果であり、授業関連の項目と学校満足度が減少していることは学校全体として危機感を持って臨まなければならない。</p> <p>【学習について】 「授業はわかりやすい68→65%」全学年とも減少している。学年、教科で検証し、授業改善につなげていく。「授業の進度が適切73→67%」と減少した。2・3年生は微減だが、1年生では8ポイントと大幅減少している原因は検証しなければならない。</p> <p>【学校生活について】 「学校へ行くのが楽しい81→78%」「学校行事は楽しく行えるように工夫されている85→79%」と初めて80%を割り込んだ。90%の保護者が「子どもは学校行事に積極的に取り組んでいる」と回答していることから、楽しく行える」という観点に対して生徒たちとの対話を進めていく必要がある。</p> <p>【教育相談について】 「悩みや相談に応じてくれる先生がいる54→52%」「担任以外で気軽に相談のできる先生がいる34→32%」と減少している。支援委員会、学年がさらに連携を図り、気軽に相談できる体制を構築していく。</p> <p>【教員アンケートより】 「教育活動について教職員で日常的に話しあっている」の項目が86→78%と大幅に減少した。前例踏襲をよしとせず、生徒の現状を把握し、将来を見据えて指導していく必要がある。</p> | <p>第1回（平成30年5月24日） 【平成30年度学校経営計画について】 ・昨年度の学校教育自己診断結果はほとんどの項目で上昇しているため、これまでの取り組みをさらに進めてほしい。 ・ICT機器活用の研修会などを実施し、授業改善に努めていることは評価できる。 ・カリキュラムの改訂にともない、授業内容やスタイルで河南の特徴を出す必要がある。</p> <p>第2回（平成30年10月16日） 【第1回授業アンケートについて】 ・毎年2回目の方が高い理由はあるか。評価を上げるために何かしていることはあるのか。 ・アンケート結果を受けて、授業の改善点を検証してほしい。 ・今後の大学入試の変化に向けて、記述力・表現力・思考力を高めるような授業が求められている。 【学力生活実態調査について】 ・入学直後と2学期始めを比べると学習時間が大幅に減少している。勉強させるような取り組みを考える必要がある。</p> <p>第3回（平成31年1月22日） 【学校教育自己診断結果について】 ・2年生の肯定度が下がっている傾向は改善しなければならない。 ・教員から見て、授業に積極的に取り組んでいない生徒の割合が上がっているのが気になる。原因究明と対策を講じる必要がある。 ・学習形態の改革期にあり、これからは思考力、表現力が身につけているかが問われる。授業スタイルを変える必要がある。 ・教員アンケートに「授業で工夫している」という項目がないのはおかしい。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------|---|---|--|---|
| 1 幹の太い生徒の育成 | <p>(1) 人間力の育成 ア 生活規律の確立 イ 人権教育の推進 ウ 特別講演会の開催及び課外活動の充実</p> | <p>(1) ア・生活指導部及び生徒自治会とも連携しながら挨拶の励行や生活規律の確立に努める。 イ・生徒向け人権学習を充実させ、人権意識の向上を図る。 ・教職員に対しては、「発達障がい等の生徒対応について」の研修を実施する。 ・いじめアンケートを活用し、いじめの早期発見に努め、組織として対応を図る。 ウ・様々な分野で活躍している方を招聘。「夢をあきらめない」をテーマに講演会を実施し、自らの将来を主体的に考える生徒を育成する。 ・学校行事やクラブ活動等において、生徒の主体的な取組みを引きだし、自主性、忍耐力、集中力、表現力、協調性、豊かな感性などを育成する。</p> | <p>(1) ア・遅刻件数 2,000 件以下にする。(H29: 2208 件) イ・生徒の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(H29: 70%)」の項目を72%以上とする。 ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」の項目を50%以上にする。(H29: 46%) ウ・特別講演会後のアンケートの肯定的回答90%以上を維持する。(H29: 99.6%) ・「部活動に積極的に参加している(H29: 92%)」や「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている(H29: 85%)」の肯定度90%以上とする。</p> | <p>(1) ア・遅刻件数は、前年度より減少したものの2057件であった。(△) イ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目は77%であった。(◎) ・いじめについての項目は、質問の文言を修正したこともあり62%と向上した(◎) ウ・「期待以上(79.8%)」「期待通り(20.0%)」と99.8%が肯定的にとらえており、86.8%の生徒が今後の人生に良い影響を与えると回答している。(◎) ・部活動の肯定度は92%であった。(◎) 学校行事の工夫については、79%と減少した。全学年で減少していることを踏まえ、生徒が主体的に取り組む行事を構築していく。(△)</p> |

| | | | | |
|--------------------------------|--|---|---|--|
| <p>2 確かな学力の育成</p> | <p>(1) 学習意欲の向上 ア 授業規律の確立 イ 学習意欲向上をめざす取組み ウ 多様な取組みによる学習時間の増加</p> <p>(2) 充実した質の高い授業の実践 ア 習熟度別・進路別少人数授業の拡充及び授業公開・研究協議の充実 イ 新教育課程の検討及び ICT 機器等の活用推進による授業改善 ウ 読書活動への啓発</p> | <p>(1) ア・「授業が最大の生徒指導」の意識をもち、ベル着・机上整理・授業集中を徹底する。生徒集会など機会ある毎に注意喚起を行い、意識の向上を図る。 イ・各学年において生徒の実態に即した学習の取組みを推進し、学習意欲の向上を図る。 ・授業及び学年通信や集会などの機会を通じ、自発学習の0時間日をなくすよう啓発し、自学自習の意識の確立を図る。 ウ 自習室の活用、進学講習やサポート講習・補習等を充実し、学習時間の増加をめざす。</p> <p>(2) ア・数学(2年生)と英語(1年生)において、少人数展開授業を実施し、苦手意識のある生徒の減少、得意生徒の学力向上を図る。 ・公開授業を5回実施することにより授業力の向上を図る。 イ・次期学習指導要領を踏まえ、新大学入試制度に対応する教育課程を検討する。また、新大学入試制度を鑑み、生徒を鍛え伸ばす授業をめざして、AIに関する研究を進める。 ・教員向けICT研修を充実し、活用教員を増やすことにより、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。 ウ・学年、教科、分掌及びクラブ顧問とも連携し、生徒実態に即した読書活動へのアプローチの仕方を考えながら進める。</p> | <p>(1) ア・授業アンケート質問1(H29:2.85)を0.05ポイント向上させ、質問2(3.30)は3.20以上を維持する。 イ・生徒向け意識調査による、授業以外の学習時間30分以内の生徒を30%以下にする。(H29:32.5%) ウ・生徒の「授業以外の補習や講習が充実している。(H29:64%)」の項目を2%向上させる。</p> <p>(2) ア・生徒の「授業はわかりやすい(H29:68%)」「教え方の工夫(71%)」「進度が適切(73%)」の項目についてそれぞれ2%向上をめざす。 ・教員の「教育活動について教職員で日常的に話し合っている(H29:86%)」の項目85%以上を維持する。 イ・新しい教育課程の素案を決定する。 ・教員のICT機器活用率90%以上をめざす。(H29:88.5%) ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている(H29:71%)」の項目を2%向上させる。 ウ・「月1冊以上の本を読む」生徒を35%以上にする。(H29:33%)</p> | <p>(1) ア・授業アンケートの質問1は2.91、質問2は3.32と目標は達成できている。(◎) イ・家庭学習30分以内の生徒は33.8%と増加している。(△)なお、2年生の半数以上が30分以内と答えている現状は改善していかなければならない。 ウ・65%と1%の上昇に留まった。3年生は26%上昇したが、1年生が3%、2年生が16%減少したことを踏まえ、次年度の講習等を計画していく。(△)</p> <p>(2) ア・「授業はわかりやすい(65%)」「教え方の工夫(71%)」「進度が適切(67%)」と目標に届かなかった。(△) ・「教育活動について日常的に話し合う(78%)」が大幅に減少している。「例年通り」「前年踏襲」という考え方を改め、生徒の現状を踏まえ、将来像を描きながら取り組んでいかなければならない。(△) イ・新しい教育課程については検討を始めたところである。(△) ・ICT活用率は86.3%と目標に届かなかった。(△) ウ・33%と昨年と同じであった。読書マラソンなどは継続しつつ、授業と関連付けて読書活動推進を考えていかなければならない。(△)</p> |
| <p>3 特色づくりの推進による学校力の向上</p> | <p>(1) 特色づくりの取り組み充実 ア eコースの充実及び大学連携授業の実施 イ 資格取得の推進 ウ 国際交流および国際理解教育の推進 エ 国際貢献に取り組む生徒の育成</p> <p>(2) 地域および他校種連携の拡充 ア 地域連携および中高交流の進展</p> <p>(3) 災害に強い学校づくり</p> <p>(4) 健康に過ごせる学校づくり</p> | <p>(1) ア・eコースにおける体験学習・高大連携・発展学習の充実を図る。 ・理数医療系の大阪府立大学との連携授業、2年生全員による大阪大谷大学の1日授業体験等の実施により、進学意識の向上を図る。 イ・実用英語検定1・2年生は全員受験とし、3年生未取得者には受験を推奨する。 ウ・国際交流委員会を中心に交換留学や海外からの訪問団を積極的に受け入れる。また、国際理解教育を推進し、グローバル人材の育成に努める。 エ・環境教育の一環としてエコキャップ運動を継続し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む意識を醸成する。</p> <p>(2) ア・河南講座やクラブ活動による中高交流等において、生徒主体の地域連携の強化を図る。</p> <p>(3) ・南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル、大地震発生時アクションカード、生徒引き渡し概要を充実させる。</p> <p>(4) ・校内業務の精選を行い、業務の平準化を図る。また、ICT機器及び校務処理システムの活用等により業務の効率化を図る。 ・外部人材の活用やノークラブデー及び一斉退庁日の徹底等により、業務負担を軽減する。</p> | <p>(1) ア・eコース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者65%以上(H29:62.5%) ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。(H29:83.9%) イ・英検準2級以上の合格者100人以上を維持する(H29:203人) ウ・生徒の国際理解教育に関する項目を82%以上にする。(H29:81%) エ・ユニセフと連携し、より多くのポリオワクチンの供給に貢献する。(H29:15人分)</p> <p>(2) ア・クラブによる中高交流10クラブ以上を維持する。(H29:11クラブ115回)</p> <p>(3) ・生徒の「学校で災害が起こった場合の行動を具体的に知らされている(H29:73%)」の項目を75%以上にする。</p> <p>(4) ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準にする</p> | <p>(1) ア・教育系及び国公立大学進学希望者は86.4%であった(◎) ・卒業生アンケートでの満足度は85%であった(◎) イ・2級33名、準2級133名が合格している。(◎) ウ・質問の文言を修正したこともあるのか71%と10%減少している。特に、2年生は海外修学旅行であったにも関わらず、20%も減少していることを分析しなければならない。(△) エ・富田林市のゴミ収集におけるペットボトル有料化に伴い、エコキャップ運動が行いにくくなっているが継続していく。(14人分)(△)</p> <p>(2) ア・12クラブ、106回実施している。(◎)</p> <p>(3) ・「災害が起こった場合の行動を具体的に知らされている(74%)」と1%の向上に留まった。災害時アクションカードの周知徹底と共に避難訓練等の在り方を検討していかなければならない。(△)</p> <p>(4) ・3月20日時点では、教員一人平均時間外労働時間は23時間程減少している(○)</p> |

府立河南高等学校

| | | | | |
|--------------|--|--|---|---|
| 4 生徒支援の充実 | <p>(1) 教育相談体制の充実</p> <p>ア 生徒情報の共有化と組織的な対応</p> <p>(2) キャリア教育体制の確立</p> | <p>(1)</p> <p>ア・支援を必要とする生徒のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有化と組織的な対応を促進する。</p> <p>・支援委員会を中心に、本校の現状にあった教育相談体制の構築をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>・3年間を見通した進路指導計画により、的確な進路指導を行い、生徒の自己実現を支援する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒の「担任以外で気軽に相談できる先生がいる(H29:34%)」の項目を2%向上させる。</p> <p>(2)</p> <p>・生徒の「進路の情報をよく知らせてくれる(H29:84%)」の項目を2%向上させる。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・32%と2%減少であった。1年生では12%向上したが、2年生6%、3年生10%減少と言う結果であった。学年、支援委員会が協働し、生徒の現状に対応した教育相談体制を構築しなければならない。(△)</p> <p>(2)</p> <p>・82%と2%の減少であった。1・2年生の進路への意識をさらに向上させていかねばならない。(△)</p> |
|--------------|--|--|---|---|